

障害福祉サービス共通評価基準② 〔障害者(児)／在宅〕

1 人権への配慮

在宅で暮らす障害者(児)が「尊厳をもってその人らしい自立した豊かな生活が送れるよう支援する。」という理念に基づき、①サービス提供の基本方針が明示され職員に認識されているか、②利用者が主体的にサービスを利用できる体制が取れているか、③利用者ニーズに基づいたサービスが地域の関係機関との連携によって提供されているか、④地域の一員であり、社会資源のひとつとしての認識を持ってサービス提供に努めているか、といったことを評価します。

また、利用者の人権への配慮、対等な関係性、プライバシー保護を前提とした情報の公開、自立を目指すエンパワメントや利用者が求めている自立生活への支援がされているかという点を評価します。

さらに、苦情解決や必要な改善を行う体制の整備、利用者への周知という点も評価対象となります。

中項目	小項目(質問項目)	着 眼 点	コ メ ン ト
(1)サービス提供の基本方針	①サービス提供に関する基本方針・職員等への周知	<input checked="" type="checkbox"/> 1.基本方針(理念)を事業所として責任をもって作成、明文化している。	パンフレット、ホームページ、社員総会等で、事業所の方針を通知している。
		<input checked="" type="checkbox"/> 2.基本方針が利用者にも周知されている。	
		<input checked="" type="checkbox"/> 3.基本方針に職員の意向が反映されている。	
		<input checked="" type="checkbox"/> 4.利用者主体の視点を明確にしている。	
		<input checked="" type="checkbox"/> 5.地域の在宅支援向上に寄与することを明確にしている。	
5項目中 5項目 評価結果 (A)・B・C			
(2)サービス提供体制	①利用者主体のサービス確保に向けた取り組み	<input checked="" type="checkbox"/> 1.サービスの質に関する話し合いを事業所内で定期的、継続的に行っている。	全体会議を月に1回、その他、職員間において随時支援についての細かい相談等を行っている。利用者さんを交えてはできていないが、個別に対応している。 年度末に自己評価、代表理事による個別面談を行っている。 今年度、外部研修への参加回数が少なかった。来年度は現場に余裕を持ち、研修参加の機会を増やしたい。
		<input checked="" type="checkbox"/> 2.サービスの課題を明確にし、改善に努めている。	
		<input type="checkbox"/> 3.利用者を交えての意見交換の場が、随時、持たれている。	
		<input checked="" type="checkbox"/> 4.質の高いサービスを確保するため、定期的、継続的に職員のスキル評価を実施している。	
	②内部コミュニケーションを図る機会の確保	<input checked="" type="checkbox"/> 1.全職員で業務改善や利用者サービスの点検について意見交換する場が、随時もたれている。	
		<input checked="" type="checkbox"/> 2.職員会議では議題に対して対等、自由活発に議論をしている。	
		<input checked="" type="checkbox"/> 3.職員会議で決められたことは、全員一致して取り組んでいる。	
		<input checked="" type="checkbox"/> 4.職員の不安や悩みを解消するミーティングや不安等を受け止める体制がある。	
	③職員研修の機会(職員の育成)	<input checked="" type="checkbox"/> 1.全職員に研修が案内され、参加機会の均等化に配慮されている。	
		<input checked="" type="checkbox"/> 2.外部研修への参加希望には、できるだけ添うように努めている。	
		<input checked="" type="checkbox"/> 3.一年目の職員に対する、研修マニュアルが準備されている。	
		<input type="checkbox"/> 4.自主研修の機会づくりを支援している。(職員側からの研修計画への支援)	
		<input checked="" type="checkbox"/> 5.研修結果を全職員に還元する機会を作っている。	
<input checked="" type="checkbox"/> 6.研修には、専門図書やビデオなども活用している。			
<input checked="" type="checkbox"/> 7.研修には、OJT手法を活用している。			
15項目中 13項目 評価結果 (A)・B・C			
(3)人権擁護・苦情への対応	①利用者サービス提供者の対等な関係性への配慮	<input checked="" type="checkbox"/> 1.年齢相応の対応、言葉かけ、呼称を使っている。	個人情報保護、守秘義務等に関して、重要事項説明書に明記し、契約時に説明させて頂いている。
		<input checked="" type="checkbox"/> 2.指導的立場ではなく、支援の視点で関わっている。	
		<input checked="" type="checkbox"/> 3.利用者への暴力や虐待行為に対して、懲罰規定や研修会等の防止策がとられている。	
	②個人情報の保護や情報開示への同意	<input checked="" type="checkbox"/> 1.利用者の個人情報に関する取り扱いやケース記録の保管に関する規定がある。	
		<input checked="" type="checkbox"/> 2.関係機関への個人情報の提示については、利用者に同意を得ている。	
		<input checked="" type="checkbox"/> 3.個人情報の守秘義務を職員に徹底させている。	
		<input checked="" type="checkbox"/> 4.守秘義務やプライバシーの保護を徹底していることを、利用者に対して説明している。	

	③苦情相談窓口等の体制の明文化と周知	<input checked="" type="checkbox"/> 1.苦情解決体制が明文化され、利用者や関係機関に周知されている。 <input checked="" type="checkbox"/> 2.苦情相談の受け付け担当者や責任者を明確にしている。 <input type="checkbox"/> 3.苦情解決へ向けた第三者委員会が設置されている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4.苦情相談の解決が事業者のみで困難なときは、外部の権利擁護機関などと連携している。 <input checked="" type="checkbox"/> 5.利用者に外部の権利擁護機関の存在や役割を情報提供している。	第三者委員会は設置されていないが、担当者が他事業所とも連携しながら対応している。
		12項目中 11項目 評価結果 (A)・B・C	
(4)利用者の自己実現への配慮	①利用者の意志の尊重と支援	<input checked="" type="checkbox"/> 1.職員や関係者の価値観で決めるのではなく、利用者の意志を尊重するように努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 2.利用者に合わせたコミュニケーション方法をとっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 3.重度の人の場合、家族からの聞き取りをするが、本人の意志を尊重する努力をしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4.新しい体験にチャレンジできる機会づくりに努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 5.地域の行事への参加や、ボランティアとの関わりをもてる機会を作れるよう支援している。	新しい余暇の過ごし方の提案や本人の興味を探りながら支援に入らせて頂いている。 協力している子ども食堂でボランティアとの関わりがあった。
		5項目中 4項目 評価結果 (A)・B・C	
(5)エンパワメントと自立支援	①情報の提供	<input checked="" type="checkbox"/> 1.自立生活(成人期以降の家族からの独立や社会参加促進等)を実現するための、情報をわかりやすく伝えるように努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 2.自立生活を促進させるため、地域に対して情報の提供や障害者理解への啓蒙活動に努めている。	一人暮らしの利用者様の身の回りのお世話等はもちろん、一人ひとりに対して気持ちの汲み取り、他サービスへの情報共有等を密に行っている。
	②自己選択と自己決定	<input checked="" type="checkbox"/> 1.自立生活をイメージできる体験の機会をつくるなど、自立に向けての支援に努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 2.できる限り自分が住み慣れた地域での、生活を継続できるよう支援に努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 3.自分の暮らしを自己決定できるよう、制度サービスを説明している。 <input checked="" type="checkbox"/> 4.様々な機会において、自分で選択し、決定できるよう配慮している。	
		6項目中 6項目 評価結果 (A)・B・C	
(6)地域との接点	①地域に対するサービスの情報公開と周知	<input checked="" type="checkbox"/> 1.地域に対してサービス内容の情報を開示している。(パンフレット、掲示板等の活用) <input checked="" type="checkbox"/> 2.機関誌を発行するなど地域への情報提供、PR等を実施している(年3回以上) <input type="checkbox"/> 3.地域に向けての講座や研修等を企画、実践している。	ホームページにて月1回以上、活動内容や法人の雰囲気や伝わるようなトピックを公表している。
	②サービス調整会議への参画、関係機関との連絡、調整	<input checked="" type="checkbox"/> 1.地域のサービス調整会議に参加している。 <input checked="" type="checkbox"/> 2.地域の一機関としての役割を意識して、サービス提供をしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 3.日常的に関係機関との連携に努めている。	必要に応じて、地域、学校、サービス関係者会議に参加している。
	③実習生、ボランティアの受け入れ	<input type="checkbox"/> 1.実習生を受け入れている。 <input checked="" type="checkbox"/> 2.ボランティアを受け入れている。 <input checked="" type="checkbox"/> 3.受入の方針、マニュアル、担当者を明確にしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4.受入の際、利用者のプライバシーの保護の確保に努めている。	実習生受け入れはできていない。 協力している子ども食堂でボランティアとの受け入れをしている。
		10項目中 8項目 評価結果 (A)・B・C	
(7)信頼と安全性の確保	①事故や災害発生時への対応や予防、防災への取り組み	<input checked="" type="checkbox"/> 1.事故、災害に対する対応マニュアルが作成されている。 <input checked="" type="checkbox"/> 2.利用者、事業所、関係機関等と緊急の連絡が取れるよう努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 3.事故発生時には、事故の状況が全職員に周知されている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4.事故を未然に防ぐ方法やまた事故発生後の申告書等が整備されている。 <input checked="" type="checkbox"/> 5.必要に応じ消防署や警察署との連携を取っている。	他事業所とも連携し、連絡網の作成、体制の確認等を行った。
	②衛生管理、感染予防への対応	<input checked="" type="checkbox"/> 1.衛生管理、感染予防の情報を取り入れるよう努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 2.利用者、職員の衛生管理、感染予防に努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 3.必要に応じ医療、保健機関との連携をとっている。	

	8項目中	8項目	評価結果	A	B	C	
--	------	-----	------	---	---	---	--

2 相談支援事業 〈生活支援センター等相談支援事業所項目〉

在宅で暮らす障害児(者)にとって安心感のある生活とは、個別のサービスが整備されていけばいいのではなく、時間の切れ目がない毎日の生活への継続的な支援や、進路の選択、社会参加、住宅の確保等などライフサイクルに応じた支援が必要とされています。このような支援は、個人や一事業所、一機関だけでできるものではなく、地域関係者がトータルに支え合う地域ケアシステムが必要です。

このため、地域でサービスを必要とする方のニーズを受け止め、適切なサービス利用へとつなげていく相談支援事業については、相談からサービスの調整、モニタリングまでのケアマネジメント活用や、サービス調整会議への参加など「地域で支える」という視点から評価します。

中項目	小項目(質問項目)	着 眼 点	コ メ ント
(1)ケアマネジメントの機能	①相談窓口の機能と連携	<input type="checkbox"/> 1.どのような生活課題の相談でも受け止め、他機関と連携している。	
		<input type="checkbox"/> 2.どこに相談が持ち込まれても対応できるよう他機関との連携がある。	
		<input type="checkbox"/> 3.いつでも相談が受け止められる体制である。	
	②利用者の状況やニーズを把握するための活動	<input type="checkbox"/> 1.ニーズ把握のため、関係者と家庭訪問をしている。	
		<input type="checkbox"/> 2.家庭訪問の時間帯、場所は利用者の利便性を考慮している。	
		<input type="checkbox"/> 3.情報把握のため、地域関係者と情報交換をしている。	
	③制度、サービスの情報収集・提供、周知	<input type="checkbox"/> 1.利用者に制度、サービスをわかりやすく情報提供している。	
		<input type="checkbox"/> 2.地域の制度、サービスの実情について情報収集に努めている。	
		<input type="checkbox"/> 3.利用者が制度、サービスを学習する機会をつくっている。	
	④個別ケア会議の開催・ケアプランの作成	<input type="checkbox"/> 1.会議は、利用者が参加しやすいように配慮されている。	
		<input type="checkbox"/> 2.随時、会議が開催されている。	
		<input type="checkbox"/> 3.利用者ニーズに応じて、誰もが参加できる体制になっている。(医療、保健福祉、教育、労働等)	
		<input type="checkbox"/> 4.利用者ニーズに基づき、個別支援計画を作成している。	
		<input type="checkbox"/> 5.作成した個別支援計画に利用者の同意をとっている。	
		<input type="checkbox"/> 6.支援計画後も、利用者の生活状況の把握に努めている。	
		<input type="checkbox"/> 7.必要に応じて、個別支援計画の見直しを行っている。	
		<input type="checkbox"/> 8.個別支援計画に沿ってサービスの提供が実施されているか、その把握と評価に努めている。	
	⑤サービス調整会議(全体会議)への参加	<input type="checkbox"/> 1.地域の情報や課題を共有するため、会議に参加している。	
		<input type="checkbox"/> 2.地域の課題を検討する会議等に関わりを持っている。	
		<input type="checkbox"/> 3.新たな制度やサービスを開発するための検討会議に関わりをもっている。	
	⑥サービス評価体制の整備	<input type="checkbox"/> 1.サービス調整会議にサービス評価のための体制を整備している。	
		<input type="checkbox"/> 2.サービスへの評価を知るための手段を工夫している。(利用者集会、ユーザーアンケート等)	
		<input type="checkbox"/> 3.サービス評価の結果を利用者に対して公開している。	
		23項目中 項目 評価結果 A・B・C	
(2)ライフサイクルに応じた支援	自立生活支援の促進	<input type="checkbox"/> 1.自立生活の支援を促進するため、医療、保健、教育、福祉、労働等関係機関との情報の交換、課題の共有、連携ができています。	
		<input type="checkbox"/> 2.自立生活支援への個別支援計画が利用者に提示されている。	
		<input type="checkbox"/> 3.ライフサイクルごとに派生するニーズへの対応、制度の隙間を埋める支援や、その体制整備に努めている。	
		<input type="checkbox"/> 4.アパート、グループホーム等、自立生活の場の確保に努めている。	
		4項目中 項目 評価結果 A・B・C	

3 ホームヘルプサービス事業（居宅介護、同行援護、行動援護、重度訪問介護）

在宅サービスを提供する事業所は、利用者ニーズに基づいて作成された個別支援計画の一部分を担い支援しているということ、すなわち地域ケアシステムの一部として機能しているという認識が必要です。障害者(児)の需要が多いホームヘルプサービスについては、利用者の生活状態やニーズに柔軟に対応できるよう、利用方法の明確性や簡便性、サービス内容の説明、利用者の状況把握対応など、利用者の求めている生活への的確な支援という視点からの評価とともに、利用者情報の共有化によるサービスの均質化とサービス提供に伴うプライバシーの保護も評価します。

中項目	小項目(質問項目)	着 眼 点	コ メ ン ト
(1)ホームヘルプサービスの提供	①サービスの利用	<input checked="" type="checkbox"/> 1.利用者に負担にならないよう、サービスの申し込みに配慮している。	ご依頼方法や連絡手段を選択できるように設定している。(電話が苦手な方等への考慮) 事前訪問しサービス内容を相談することはもちろん、支援開始してからフォローできる体制作りを行っている。
		<input checked="" type="checkbox"/> 2.サービスが利用できない時は、理由を明確にし、フォローアップにも努めている。	
		<input checked="" type="checkbox"/> 3.サービスの調整や苦情を受け止める担当者が決められ、利用者に周知されている。	
		<input checked="" type="checkbox"/> 4.事前に訪問するなどサービスの内容説明に努めている。	
		<input checked="" type="checkbox"/> 5.日常の活動、利用者の状況について連絡を密にとっている。(連絡帳電話、ファクス、インターネット等の活用)	
	②食事援助	<input checked="" type="checkbox"/> 1.利用者ニーズに基づいて、食事が提供されている。	食事、入浴、排せつに関してプライバシーに配慮し、一人ひとりに合った環境設定をさせて頂いている。
		<input checked="" type="checkbox"/> 2.利用者の障害状態に応じた食事援助がなされている。(調理法、食器、介助方法、自助具等)	
		<input checked="" type="checkbox"/> 3.適時、適温の提供や食事の雰囲気作りに努めている。	
	③入浴援助	<input checked="" type="checkbox"/> 1.利用者の障害状態に応じた入浴援助がなされている。(時間、介助者、介護機器等)	関係機関と連携しながら、必要な情報の収集、社会参加のきっかけづくりとなるよう援助を行っている。
		<input checked="" type="checkbox"/> 2.希望があればいつでも入浴できるよう努めている。	
		<input checked="" type="checkbox"/> 3.同性介助に努めている。	
	④排泄援助	<input checked="" type="checkbox"/> 1.利用者の障害状態に応じた排泄援助が、随時なされている。(便器、介助等)	マニュアル、手順書を積極的に作成し、引継ぎがスムーズに行えるようにしている。
		<input checked="" type="checkbox"/> 2.プライバシーが保護されている。	
		<input checked="" type="checkbox"/> 3.同性介助に努めている。	
	⑤社会参加活動援助	<input checked="" type="checkbox"/> 1.社会参加を促進するための情報の収集や、利用者への情報提供に努めている。	関係機関と連携しながら、必要な情報の収集、社会参加のきっかけづくりとなるよう援助を行っている。
		<input checked="" type="checkbox"/> 2.利用者の障害状態や目的に応じた移動手段等による外出援助がなされている。	
		<input checked="" type="checkbox"/> 3.利用者の意向を尊重し、事前に目的、方法について確認をしている。	
	⑥サービスの標準化	<input checked="" type="checkbox"/> 1.どの職員においても、同じ質のサービスが提供できるよう工夫している。(工夫とは記録、情報交換等を含む会議の実施等)	マニュアル、手順書を積極的に作成し、引継ぎがスムーズに行えるようにしている。
		<input checked="" type="checkbox"/> 2.随時、サービス提供の見直しに努めている。	
		<input checked="" type="checkbox"/> 3.サービス提供マニュアルに対して、利用者の同意を取っている。	
	⑦サービス内容の周知・要望、苦情を聞く機会づくり	<input checked="" type="checkbox"/> 1.パンフレット、機関誌などでサービス内容を周知している。	28項目中 27項目 評価結果 (A)・B・C
		<input checked="" type="checkbox"/> 2.サービス提供後の評価が諮れるよう努めている。	
		<input checked="" type="checkbox"/> 3.利用者の要望、苦情を聞くようにしている。(ユーザーアンケート等)	
		<input type="checkbox"/> 4.市町村と、サービス内容に関して協議、懇談する場等を設定している。	
	⑧利用者情報の共有化とプライバシーの保護	<input checked="" type="checkbox"/> 1.全職員が利用者の情報を共有できるように手段を講じている。	日々の支援方針やご本人に合った特性支援等、職員間で相談しながら計画を作成している。
		<input checked="" type="checkbox"/> 2.日常的にサービス内容や利用者情報について意見交換している。	
		<input checked="" type="checkbox"/> 3.サービス提供中の記録に努めている。	
		<input checked="" type="checkbox"/> 4.サービスで知り得たプライバシーの保護を徹底している。	
(2)ケアマネジメント体制	①利用者ニーズに対するケアマネジメント体制(個別支援計画作成)の確立	<input checked="" type="checkbox"/> 1.利用者ニーズに対して、個別支援計画を作成するチーム体制が整備されている。 <input checked="" type="checkbox"/> 2.利用者個々の個別支援計画が、全職員に周知されている。 <input checked="" type="checkbox"/> 3.ケアマネジメントのチーム体制の見直しができている。	日々の支援方針やご本人に合った特性支援等、職員間で相談しながら計画を作成している。

	3項目中 3項目	評価結果	A · B · C	
--	----------	------	-----------	--

(3)ケアマネジメント手法の活用	①利用者ニーズの把握、個別支援計画作成、サービス提供、モニタリング	<input checked="" type="checkbox"/> 1.日常的に利用者ニーズの把握、情報収集に努めている。	サービスの変更時はもちろん最低1年に1回は個別支援計画を見直している。
		<input checked="" type="checkbox"/> 2.アセスメントに基づき個別支援計画を作成している。	
		<input checked="" type="checkbox"/> 3.個別支援計画に利用者の同意を得て、サービスを提供している。	
		<input checked="" type="checkbox"/> 4.支援計画作成後も、利用者の生活状況の把握に努めている。	
		<input checked="" type="checkbox"/> 5.必要に応じて、個別支援計画の見直しを行っている。	
5項目中 5項目		評価結果 (A) ・ B ・ C	
(4)健康管理などへの支援	①健康管理と健康に対する職員研修	<input checked="" type="checkbox"/> 1.利用者の体調の変化に気をつけながらサービス提供を行っている。	記録に特記事項を記載し変化に気付くよう日々努めている。 利用者ごとに発作時の対応方法をまとめている。
		<input checked="" type="checkbox"/> 2.利用者の健康状況、体調変化への対応を職員が周知している。	
		<input checked="" type="checkbox"/> 3.緊急対応の記録の作成に努めている。	
		<input type="checkbox"/> 4.体調不良等に対応できる看護職が配置されている。	
		<input checked="" type="checkbox"/> 5.障害特性や健康に対する学習会を実施している。	
5項目中 4項目		評価結果 (A) ・ B ・ C	
(5)利用者評価の受け止め	①サービス提供時の利用者の評価とサービス評価体制の整備	<input type="checkbox"/> 1.サービスに対する評価の場として、利用者会を実施している。	利用者会やアンケートは実施していないが、必要に応じて話し合いの場を設けている。
		<input type="checkbox"/> 2.サービスに対する評価の場として、アンケートを実施している。	
		<input checked="" type="checkbox"/> 3.事業所内にサービス改善のための体制を整備している。	
		<input checked="" type="checkbox"/> 4.外部の機関と連携し、サービス評価に努めている。	
4項目中 2項目		評価結果 A ・ (B) ・ C	

4 ショートステイ事業

在宅で暮らす障害者(児)にとって、日常生活の中でアクシデントが起きた時の支援として、ショートステイは有効なサービスです。それだけに、在宅生活の現状や課題を知り、緊急時の対応なども含めた生活支援の視点から利用しやすいサービスに心がける必要があります。このため、サービスの利用申込から提供までの過程における利用者への配慮や、ニーズに応じた体制の整備、さらにサービス提供の前提としての地域の障害者の情報の把握などを評価します。

中項目	小項目(質問項目)	着 眼 点	コ メ ン ト
(1)ショートステイサービスの提供	①サービスの利用	<input type="checkbox"/> 1.利用者の負担にならないよう、サービスの申し込みに配慮している。	
		<input type="checkbox"/> 2.受入できない時期や理由を関係機関や利用者にも明らかにしている。	
		<input type="checkbox"/> 3.利用時にサービス内容の説明に努めている。	
		<input type="checkbox"/> 4.ショートステイの窓口担当が決められている。	
	②食事援助	<input type="checkbox"/> 1.利用者ニーズに基づいて、食事が提供されている。	
		<input type="checkbox"/> 2.利用者の障害状態に応じた食事援助がなされている。(調理法、食器、介助方法、自助具等)	
		<input type="checkbox"/> 3.適時、適温の提供や食事の雰囲気作りに努めている。	
	③入浴援助	<input type="checkbox"/> 1.利用者の障害状態に応じた入浴援助がなされている。(時間、介助者、介護機器等)	
		<input type="checkbox"/> 2.希望があればいつでも入浴できるよう努めている。	
		<input type="checkbox"/> 3.同性介助に努めている。	
	④排泄援助	<input type="checkbox"/> 1.利用者の障害状態に応じた排泄援助が、随時なされている。(便器、介助等)	
		<input type="checkbox"/> 2.プライバシーが保護されている。	
		<input type="checkbox"/> 3.同性介助に努めている。	
	⑤建物、設備の環境	<input type="checkbox"/> 1.利用者の障害状態に応じた環境づくりに配慮している。	
		<input type="checkbox"/> 2.スムーズに移動できるよう、日頃から整理整頓に努めている。	
		<input type="checkbox"/> 3.緊急時の連絡網が、整備された住環境づくりに努めている。	
		<input type="checkbox"/> 4.トイレの美化など住環境の整備に努めている。	
	⑥利用者に合わせた体制作り	<input type="checkbox"/> 1.施設の付帯事業としてでなく、在宅支援の重要なサービスとして取り組んでいる。	
		<input type="checkbox"/> 2.障害状態に応じた職員配置を実施している。	
		<input type="checkbox"/> 3.年令、障害状況を問わず受け入れるよう努めている。	
		<input type="checkbox"/> 4.緊急時の利用にも対応している。	
	⑦本人の日常性への配慮	<input type="checkbox"/> 1.本人の日常生活に配慮した、職員配置、環境に配慮している。	
		<input type="checkbox"/> 2.希望があれば学校、作業所等へ通える体制がとれる。(送迎支援等)	
		<input type="checkbox"/> 3.利用者の関わっている関係機関(学校、作業所等)との連携に努めている。	
		<input type="checkbox"/> 4.ショート利用による本人の機能低下の防止に努めている。	
	⑧地域の情報把握	<input type="checkbox"/> 1.地域の障害者の情報を把握するよう努めている。	
		<input type="checkbox"/> 2.登録の際、家庭訪問をして情報の把握に努めている。	
		<input type="checkbox"/> 3.登録の際、来所面談等をして情報の把握に努めている。	
⑨サービスの標準化	<input type="checkbox"/> 1.どの職員においても、同じ質のサービスが提供できるよう工夫している。(工夫とは記録、情報交換等を含む会議の実施等)		
	<input type="checkbox"/> 2.随時、サービス提供の見直しに努めている。		
	<input type="checkbox"/> 3.サービス提供マニュアルに対して、利用者の同意を取っている。		
31項目中 項目 評価結果 A・B・C			

(2)健康管理 などへの支 援	①健康管理と健康 に対する職員研修	<input type="checkbox"/> 1.利用者の体調の変化に気をつけながらサービス提供を行っている。	
		<input type="checkbox"/> 2.利用者の健康状況、体調変化への対応を職員が周知している。	
		<input type="checkbox"/> 3.緊急対応の記録の作成に努めている。	
		<input type="checkbox"/> 4.体調不良等に対応できる看護職が配置されている。	
		<input type="checkbox"/> 5.障害特性や健康に対する学習会を実施している。	
	5項目中 項目 評価結果 A・B・C		
(3)利用者評 価の受け止 め	①サービス提供時 の利用者の評価と サービス評価体制 の整備	<input type="checkbox"/> 1.サービスに対する評価の場として、利用者会を実施している。	
		<input type="checkbox"/> 2.サービスに対する評価の場として、アンケートを実施している。	
		<input type="checkbox"/> 3.事業所内にサービス改善のための体制を整備している。	
		<input type="checkbox"/> 4.外部の機関と連携し、サービス評価に努めている。	
	4項目中 項目 評価結果 A・B・C		

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和 6年 3月 25日

事業所名: 放課後等デイサービス incline

保護者等数(児童数) 27 回収数 25 割合 93 %

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	20			5	広間があったり、クールダウンの小さな部屋があったり、子どもの特性に適していると思う。	
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	12		4	9	送迎時にスタッフが2人乗車していると安心します。	
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	15		2	8	安全に活動できるように、ドアの施錠や、ストッパーなど配慮されていると思います。	
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	22		2	1	計画はしていただいているが、大人数での活動内容は組めないため、仕方がないと思う。	
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	21	1	1	2	活動内容がバリエーション豊かで子どもがどういうことに興味・関心があるのか知るきっかけになってとても参考になります。	
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	11	2	1	11	子ども食堂とつてもありがたいです。引き続きよろしく願います。わが子にはそういう機会は難しい。	
保護者 への 説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	21	1	3			
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	22		2	1	当日に備え本児の情報に担当者は目を通しておいてほしい。連絡帳や送迎時に孫い日の出来事を伝えてくださり助かります。	
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	22		2	1		
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	2	9	4	10	今後交流会を考えてくださっているの、つながりをもてるといいなと思います。コロナ禍を過ぎ、開催を検討しているそうで楽しみにしている。	
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	16			9		
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	22		2	1		
非常時 等の 対応	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	23			2	LINEで写真や動画を送ってくださるのでありがたいです。子どもの様子がよくわかります。毎月、活動報告や行事予定が発行されとても分かりやすく、楽しみです。	
	14 個人情報に十分注意しているか	20		3	2		
満足度	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	13	2	3	7		
	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	15	1	1	18		
満足度	17 子どもは通所を楽しみにしているか	22		2	1	最近、チャレンジできることも増えてきて楽しむ時間も増えてきていると思います。「インクさん」と言って楽しみにしています。曜日もわかっているようです。	
	18 事業所の支援に満足しているか	23		2		長期休暇は10-16時の預かりで時間が少なく、本人・保護者に負担が大きいです。療育の時間や活動の種類を増やしてくれているので、できることが少しずつ増えていくといいなあとと思います。長期休暇時も送迎に配慮してもらい助かっている。	行動支援などを組み合わせてもらえればと思います。

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公)

公表:令和 年 月 日

事業所名 RECOアフタースクール 保護者等数(児童数) 14人 回収数 10 割合 70

		チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	7	2	1	0		
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	5	4	1	0		
	3	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	6	3	1	0		
適切な 支援の 提供	4	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	8	1	1	0		
	5	活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	8	2	0	0		
	6	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	2	5	3	0		
保護者 への 説明等	7	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	8	1	1	0		
	8	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	7	1	2	0		
	9	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	6	3	1	0		
	10	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	0	6	4	0		
	11	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	3	6	1	0		
	12	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	8	1	1	0		
	13	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	9	1	0	0		
非常時 等の 対応	14	個人情報に十分注意しているか	7	3	0	0		
	15	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	4	2	4	0		
	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	4	5	1	0		
満足 度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	10	0	0	0		
	18	事業所の支援に満足しているか	7	3	0	0		

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

(別添資料1)

事業所名

放課後等デイサービスincline

支援プログラム（参考様式）

作成日

年

月

日

法人（事業所）理念		法人は、「自分たちと関わる人を大切にしたい」という想いで立ち上げられた。障害福祉だけでなく、社会的引きこもり状態にある方、外国籍の方等、役割を果たせることは積極的に取り組んでいる。法人内には「incline」と「RECOアフタースクール」の名前の異なる2つの放課後等デイサービスがあり、inclineは主に養護学校に通う生徒向け、RECOは地域の学校に通う児童向けに開設。inclineは通っている子どもが「～したい気持ちになる」ように、その子らしさを大切に、様々な活動を一緒に取り組むことを理念としている。										
支援方針		inclineでは、子どもたち1人1人の個性を大切に活動しています。他者との関わりの中で、子どもたちが本来持つ心の内や、個性を自ら発見し、成長できるよう毎日活動しています。自分の好きな事を見つけること。いろいろな経験を積んで自分に自信が持てるようになること。一緒に過ごす中で人を信頼できるようになること。子どもが子どもらしくいられるように、私たちは子どもたちの「したい気持ち」に寄り添い続けます。										
営業時間		10	時	0	分から	18	時	30	分まで	送迎実施の有無	あり	なし
支 援 内 容												
本人支援	健康・生活	検温にて体調観察を行い、体調不良時の把握をいち早く行う。また、自らの体調に関して健康で安全な生活を作り出すために、体力の維持や運動能力の向上を意識する。基本的な生活習慣を身に着けることで、自分らしく暮らせる土台作りができるように支援を行う。（食事・排泄・衣服の着脱・清潔不潔・片付け等）個別活動および集団活動等の中で、さまざまな遊びを通して全体の状況や流れを把握できるよう環境を整える支援を行う。また、障害特性に合わせ、タイミングや状況（全体像）を本人が理解できるよう「見える化」するなど分かりやすく構造化する。										
	運動・感覚	公園や外出活動などで身体を動かす楽しさを感じ、体力づくりや気持ちの発散を行う。その中で、状況（屋内・屋外・広さ・安全の確保）に合わせた道具（ボール・積み木等）の選択や遊び方を伝え一緒に身体を動かす楽しさを感じてもらう。また、本児の持っている視覚、聴覚、触覚などの感覚を十分に活用できるよう、感触活動、遊具（ブランコ・滑り台・ジャングルジム等）や器具（はさみ・シール・鉛筆・洗濯ばさみ等）を使った遊びなども取り入れ成長を促していく。										
	認知・行動	発達段階や本人の特性を把握した上で、色や数字、大きさなど日常生活を送るうえで本児にとって必要な概念の獲得ができるよう、本人のストレスがかからないように環境を整え、活動の中で各感覚を刺激し、興味の幅を広げていけるように支援を行う。言葉や視覚支援（絵カードやジェスチャー）を使い本児にとって分かりやすい伝え方や寄り添いを積み重ねる事で、その場にあった適切な行動ができるようになることを目指す。感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害（自傷・他害・大きな声・こだわり行動等）に対しては、事前に環境調整など予防策を講じ、その場に応じた気持ちの発散方法や伝え方の獲得に向けた柔軟な支援を行う。										
	言語 コミュニケーション	自分の気持ちやしたいことを本児なりの方法で人に伝えられるようになることが目標。言語やジェスチャー、絵カードや独自の手段で自分の意思表示（好き・嫌い等）を安心して表現できるようになる。日々の活動の中で、「思い」と「言葉」「ジェスチャー」等が結びついているかどうか、その場面での適切な伝え方や使い方ができているかどうかを確認し、必要な支援を行う。その上で、日常生活に必要なコミュニケーションを、集団活動の中で身に付けていく。自分の気持ちが伝わる楽しさを感じ、人とのより良い関係性を作っていくことを支援していく。										
	人間関係 社会性	「人と安心できる関係性を結べるようになる」ことを目指す。当事業所では、年齢も職歴も様々な支援員を法定の人員に加え手厚く配置している。まずは自分の気持ちを伝えやすい支援員と信頼関係を結び、それをきっかけに事業所が本児にとって安心できる場所になることを目指す。それを足掛かりに、他支援員への人間関係の広がりや同世代のお友達との触れ合いの機会を育てていく。基本的には自分らしく、楽しく過ごすための支援を行うが、集団の中の過ごしの中で、将来を見据え社会性も身に付けていく為に、順番を待ったり、交代したりなど納得して気持ちの区切りが付けられるよう、丁寧に分かりやすく理由を含め支援していく。										
家族支援		放課後等デイサービスでの活動の様子を共有し、本児が家庭以外で安心して過ごせる居場所づくりを行う。また、家族の負担感が大きくなりすぎないよう、レスパイトとしての利用を受け入れる。保護者やきょうだい児の状況に合わせて、家庭が楽しく生活を送れるよう放デイ支援員としての役割を柔軟に見直す。				移行支援		福祉サービスへの移行、連携については相談支援専門員と連携し、利用者の生活全体を考慮した上で必要な措置を取り、しかるべき支援を提供する。また、卒業後を見据え、保護者や学校と本児の状態を共有し、活動の中で今後の生活に必要な力を伸ばしていくことが出来るよう支援を行う。				
地域支援・地域連携		草津地域自立支援協議会や草津市放デイ連絡会等に参加し、地域内のニーズの把握に努めながら、「地域の中の福祉資源」という位置づけの下、必要な役割を果たしていく。事業所においては、地域でのイベントや子ども食堂への参加等で地域とのつながりを深めていく。				職員の質の向上		毎日の日報とヒヤリハットを、雇用形態問わず全スタッフに周知。「次はどうするか」を考えてもらう機会を持っている。月に1度の定例会議（職員）、2カ月に1度程度のスタッフミーティング研修、年2回の法人全体研修、年3回放デイに特化した研修、虐待防止研修を実施。また、民間等の必要な資格習得を案内している。（強度行動障害実務者研修は正規職員皆受講）				

主な行事等

進級(卒業)パーティー・REC0アフタースクールとの合同企画・周年イベント・季節ごとのイベント(お花見・プール・BBQ・クリスマス・初詣・バレンタイン等)・子ども食堂・月ごとの製作活動
土日祝には余暇の広がりや学校と家庭だけではできない多くの体験をするために、少し遠出の活動を実施。(遊園地やいろいろな体験施設、電車に乗ったりもします。)・長期休み(春・夏・冬)も様々な季節感あるお出かけや活動・保護者交流会・参観日・定期面談(半年ごと)

事業所名

RECOアフタースクール

支援プログラム（参考様式）

作成日

2025 年

1 月

6 日

法人（事業所）理念		法人は、「自分たちと関わる人を大切にしたい」という想いで立ち上げられた。障害福祉だけでなく、社会的ひきこもり状態にある方、外国籍の方等、役割を果たせることは積極的に取り組んでいる。法人内には「incline」と「RECOアフタースクール」の名前の異なる二つの放課後デイがあり、inclineは主に養護学校に通う生徒向け、RECOは地域の学校に通う児童向けに開設。RECOは「RECOGNIZE」からとっており、「新しい発見にわくわくし、心と現れる日常の不思議を『わかった』に変えられるような学び」を一緒に進めることを理念としている。							
支援方針		主に発達障害のある児童に対し、放課後や長期休みに療育活動を提供している。心身の発達状況や特性に合わせた療育時間と、学びを通して自信を積み上げる時間を重ね合わせることで、子ども達の成長を応援する。							
営業時間		平日	10 時	0 分から	18 時	0 分まで	送迎実施の有無	あり	なし
支 援 内 容									
本人支援	健康・生活	基本的な生活習慣を身につけることで、それぞれが自分らしく暮らせる心身状態を保つことを目標とする。具体的には手洗い、うがいの習慣の定着、季節や場面に合わせた衣服の選択、脱ぎ・着の判断が自分でできること、感染症等に負けない体づくり（食事・運動面）への助言を中心に、毎日繰り返す。それらの基本項目に加えてステップアップしていく形で、自分の荷物の把握・整理→集団（社会）活動で使用する共有物品の掃除や片付けの意識を獲得していくことで、【個人】の意識から、【社会の中の自分】を意識できることを目指す。							
	運動・感覚	筋力、関節可動域、体の柔らかさ、運動への心理的な抵抗感（好き・嫌い）等を把握した上で、遊びを通して身体を動かす機会を保障する。具体的には、近隣の公園でのブランコや滑り台等の遊具を使用することや、鬼ごっこ、ドッチボール、大縄跳び等の馴染みのある遊びの促しを行うことで、抵抗感なく身体を動かせる機会を作っていく。感覚についてのアプローチとしては、砂遊び、粘土などの活動や、クッキングを通して行う。また、感覚過敏のある子どもについては、環境調整を行い、過度な負荷がかからない形で活動に参加できるよう工夫を行っていく。							
	認知・行動	自己肯定感を育む、ことを大目標として、日々小さな積み重ねのアプローチを行っていく。子どもそれぞれはもちろん、学年によっても相対する出来事は異なる。子どもが今どんな環境にあり（学校、家庭の状況を含む）、それについてどんな認知しているのか（ストレスがかかっているのか）を理解した上で、子どもが落ち着いて活動できるよう、言葉や視覚的支援を使って認知の修正や寄り添いを行い、より本人の望む暮らしに近づけるような行動につなげていく。衝動性が高く、突発的な行動になってしまう子どもについては、刺激の調整を行いながら、行動に至るスイッチの分析を行うことで、危険回避や活動集中力の持続を目指す。また、学校からの宿題に取り組む時間を毎日提供することで、学習習慣定着と、集中力増進につなげる。							
	言語 コミュニケーション	気持ちと言葉を結び付けられるようになることからスタートし、言語（もしくは独自の手段）で、自分の意思表示（良い・嫌）を表現できることが第一目標。日々の活動の中で、「言葉」と「思い」が結びついているかどうか、「言葉」だけが先行していないか確認し、必要な助言を行う。その後、集団（社会）生活に必要なコミュニケーションを、集団活動の中で身につけていく。合わせて、SST学習も取り入れる。							
	人間関係 社会性	人と信頼関係を結べるようになる、ことを目指す。当事業所では、大学生のアルバイトをはじめ、年齢も職歴も様々なスタッフを、法定の人員に加えて手厚く配置している。そこを活用して子どもがまずは話しやすいスタッフと信頼関係を結び、それをきっかけに事業所が子どもにとっていち早く安心できる場所になることを目指す。それを足掛かりに、他のスタッフへの人間関係の広がり、お友達とのつながりを育てていく。基本的には自分らしく、楽しく過ごすための支援を行うが、友だちとの意見の違い、ケンカになる場面については原因や「何に注意すべきだったか」を納得して気持ちの区切りが付けられるよう、より丁寧に時間を取って指導する。							
家族支援		放課後デイでの活動の様子を保護者へ伝えながら、学校、家庭での様子も伺い、子どもにとって『今必要なこと』についてタイムリーに取り組む。家族やきょうだいの状況に合わせて、放課後デイスタッフの役割を柔軟に見直す（指導者的に宿題を見たり、兄弟のように遊びに誘う等）。				移行支援		他放課後デイサービスへの移行については、保護者の希望に応じて支援計画の移管、活動の様子の引継ぎを行う。それ以外の福祉サービスへの移行、連携については相談支援専門員と連携し、利用者の生活全体を考慮した上で必要な体制をとり、然るべき支援を提供する。	
地域支援・地域連携		草津地域自立支援協議会へ参加し、地域内のニーズの把握に努めながら、「地域の中の福祉資源」という位置づけの下、必要な役割を果たしていく。事業所においては、同建物で実施している就労継続支援B型「アトリエト」と連携をし、地域向けのワークショップへの参加、マルシェ、夏祭りへの参加などを予定している。				職員の質の向上		毎日の日報とヒヤリハットを、雇用形態問わず全スタッフに周知、「次はどうするか」を考えてもらう機会をもっている。月に一度の定例会議、二か月に一度程度の、パートミーティング研修、法人全体の研修（年2回）、放課後デイに特化した研修（年3回）、民間の「子ども発達支援アドバイザー」は正規職員皆受講の他、必要な資格取得を案内している。	
主な行事等		誕生月会（毎月）、季節ごとの大イベント（夏祭り、ハロウィン、クリスマス）、長期休み（春・夏・冬）には、季節感を感じられる外出活動（お花見、プール、凧揚げ等）。							

事業所名

RECOアフタースクール南草津

支援プログラム（参考様式）

作成日

2025 年

1 月

6 日

法人（事業所）理念		法人は、「自分たちと関わる人を大切にしたい」という想いで立ち上げられた。障害福祉だけでなく、社会的ひきこもり状態にある方、外国籍の方等、役割を果たせることは積極的に取り組んでいる。法人内には「incline」と「RECOアフタースクール」の名前の異なる二つの放課後デイがあり、inclineは主に養護学校に通う生徒向け、RECOは地域の学校に通う児童向けに開設。RECOは「RECOGNIZE」からとっており、「新しい発見にわくわくし、心と現れる日常の不思議を『わかった』に変えられるような学び」を一緒に進めることを理念としている。							
支援方針		主に発達障害のある児童に対し、放課後や長期休みに療育活動を提供している。心身の発達状況や特性に合わせた療育時間と、学びを通して自信を積み上げる時間を重ね合わせることで、子ども達の成長を応援する。							
営業時間		平日	10 時	0 分から	18 時	0 分まで	送迎実施の有無	あり	なし
支 援 内 容									
本人支援	健康・生活	基本的な生活習慣を身につけることで、それぞれが自分らしく暮らせる心身状態を保つことを目標とする。具体的には手洗い、うがいの習慣の定着、季節や場面に合わせた衣服の選択、脱ぎ・着の判断が自分でできること、感染症等に負けない体づくり（食事・運動面）への助言を中心に、毎日繰り返す。それらの基本項目に加えてステップアップしていく形で、自分の荷物の把握・整理→集団（社会）活動で使用する共有物品の掃除や片付けの意識を獲得していくことで、【個人】の意識から、【社会の中の自分】を意識できることを目指す。							
	運動・感覚	筋力、関節可動域、体の柔らかさ、運動への心理的な抵抗感（好き・嫌い）等を把握した上で、遊びを通して身体を動かす機会を保障する。具体的には、近隣の公園でのブランコや滑り台等の遊具を使用することや、鬼ごっこ、ドッチボール、大縄跳び等の馴染みのある遊びの促しを行うことで、抵抗感なく身体を動かせる機会を作っていく。感覚についてのアプローチとしては、砂遊び、粘土などの活動や、クッキングを通して行う。また、感覚過敏のある子どもについては、環境調整を行い、過度な負荷がかからない形で活動に参加できるよう工夫を行っていく。							
	認知・行動	自己肯定感を育む、ことを大目標として、日々小さな積み重ねのアプローチを行っていく。子どもそれぞれはもちろん、学年によっても相対する出来事は異なる。子どもが今どんな環境にあり（学校、家庭の状況を含む）、それについてどんな認知しているのか（ストレスがかかっているのか）を理解した上で、子どもが落ち着いて活動できるよう、言葉や視覚的支援を使って認知の修正や寄り添いを行い、より本人の望む暮らしに近づけるような行動につなげていく。衝動性が高く、突発的な行動になってしまう子どもについては、刺激の調整を行いながら、行動に至るスイッチの分析を行うことで、危険回避や活動集中力の持続を目指す。また、学校からの宿題に取り組む時間を毎日提供することで、学習習慣定着と、集中力増進につなげる。							
	言語コミュニケーション	気持ちと言葉を結び付けられるようになることからスタートし、言語（もしくは独自の手段）で、自分の意思表示（良い・嫌）を表現できることが第一目標。日々の活動の中で、「言葉」と「思い」が結びついているかどうか、「言葉」だけが先行していないか確認し、必要な助言を行う。その後、集団（社会）生活に必要なコミュニケーションを、集団活動の中で身につけていく。合わせて、SST学習も取り入れる。							
	人間関係社会性	人と信頼関係を結べるようになる、ことを目指す。当事業所では、大学生のアルバイトをはじめ、年齢も職歴も様々なスタッフを、法定の人員に加えて手厚く配置している。そこを活用して子どもがまずは話しやすいスタッフと信頼関係を結び、それをきっかけに事業所が子どもにとっていち早く安心できる場所になることを目指す。それを足掛かりに、他のスタッフへの人間関係の広がり、お友達とのつながりを育てていく。基本的には自分らしく、楽しく過ごすための支援を行うが、友だちとの意見の違い、ケンカになる場面については原因や「何に注意すべきだったか」を納得して気持ちの区切りが付けられるよう、より丁寧に時間を取って指導する。							
家族支援		放課後デイでの活動の様子を保護者へ伝えながら、学校、家庭での様子も伺い、子どもにとって『今必要なこと』についてタイムリーに取り組む。家族やきょうだいの状況に合わせて、放課後デイスタッフの役割を柔軟に見直す（指導者的に宿題を見たり、兄弟のように遊びに誘う等）。				移行支援		他放課後デイサービスへの移行については、保護者の希望に応じて支援計画の移管、活動の様子の引継ぎを行う。それ以外の福祉サービスへの移行、連携については相談支援専門員と連携し、利用者の生活全体を考慮した上で必要な体制をとり、然るべき支援を提供する。	
地域支援・地域連携		草津地域自立支援協議会へ参加し、地域内のニーズの把握に努めながら、「地域の中の福祉資源」という位置づけの下、必要な役割を果たしていく。事業所においては、自治会への加入等で地域とのつながりを深めていく。				職員の質の向上		毎日の日報とヒヤリハットを、雇用形態問わず全スタッフに周知、「次はどうするか」を考えてもらう機会をもっている。月に一度の定例会議、二か月に一度程度の、パートミーティング研修、法人全体の研修（年2回）、放課後デイに特化した研修（年3回）、民間の「子ども発達支援アドバイザー」は正規職員皆受講の他、必要な資格取得を案内している。	
主な行事等		誕生月会（毎月）、季節ごとの大イベント（夏祭り、ハロウィン、クリスマス）、長期休み（春・夏・冬）には、季節感を感じられる外出活動（お花見、プール、凧揚げ等）。							

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスincline		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日		2026年 2月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32	(回答者数) 26
○従業者評価実施期間	2026年 2月 1日		2026年 2月 25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの気持ちに寄り添い、それぞれの「らしさ」を守ること	この子の特性を観察し、理解する ～しなければいけないに捕らわれず、その子のペースを守る	チームとして支援を行っていることを意識し、その子の変化を感じ取り、みんなでその子「らしさ」を守り、育てていきたい。
2	新しい経験を増やして、世界を広げていく	その子のその場所での楽しみ方を一緒に探していく 1歩を踏み出す機会を作っていく 「～してみたい気持ち」になれるよう(利用者も支援員も)と一緒に活動に参加していく	今後も今ある活動を守りながら、新しい活動を取り入れていく事で、経験を増やし、余暇を広げて欲しい。 その子の興味関心を広げていくための支援の方法をさらに磨いていく。
3	支援方法をいろいろな関係機関と共有し、みんなでその子の支援の形を作っていく。	様々な関係機関や保護者と連携を取り、支援方法の統一を行っている。	個別支援計画を全体で共有し、共通認識を持ってその子の支援をチームとして行っていく。 定期的な支援の見直しの話し合いを事業所としても、関わっている人全体としても意識して行っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流やきょうだい児交流が難しい	子ども達の特性上、地域交流が難しい まずは、活動先の公園や施設等で地域の方と交流する機会が持てるようにしていきたい きょうだい児交流に関しては、予定が合わせにくいこともあり実施できていない。	何をもち交流かということにもよるが、どのような形で、地域やきょうだい児と交流していくのかを模索し、行事等を企画していきたい
2	ペアレントトレーニングができていない	土日祝日も営業しており、保護者の皆様に集まっていただくタイミングがとりにくい。	保護者の声を聞き取り、必要に応じて、ペアレントトレーニング等も実施していきたい。集合形式でなくてもできる家族支援の方法を模索していきたい。
3	さまざまなマニュアルの周知ができていない	契約時にお話しているが、利用者様の継続年数が増えるにつれ、再度の説明が必要な場面がある。	年度ごとや時期ごとに、周知が必要なマニュアルは再度利用者の皆様が目を通せるように、周知していきたい。

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 放課後等デイサービスincline

公表日 2026年 月 日

利用児童

数 32

回収数 26

	チェック項目	はい	どちらか も いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	26	0	0	0	静養室があるのでクールダウンしやすい 面談などで見学する機会もあり、安心できる	
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	22	0	0	4		
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	23	1	0	2	手すりやすべり止め、エレベーターもあり 配慮されている。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	24	0	0	2		
適切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	26	0	0	0		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	24	0	0	2	音楽療法やプールなど、組み込まれていて 楽しく過ごさせてくれている	
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	25	0	0	1		
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	25	0	0	1		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	25	1	0	0	学校とも連携を取ってくださっていて助 かっています。	
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	26	0	0	0	様々な経験をさせて頂きありがとうございます！ 新しくいく場所も多々あり、良い刺激に なっています。多方面の活動がある。	
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	18	4	1	3		
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	23	2	0	1		
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	24	2	0	0		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	22	1	0	3		
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状態について共通理解ができていると思いますか。	25	1	0	0	学校で大きなイタズラをしてしまった際 は、一緒に対策や話を聞いて下さり助かり ました。送迎時、詳しくお伝え頂いていま す。	
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	25	1	0	0		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	26	0	0	0	活動の様子を優しい目線で伝えて頂き楽し んでいる様子や成長を感じることができ ています。	
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	20	3	0	3	保護者交流会では異なる年齢(学年)の方と、 日頃の悩みや情報交換ができてとても良 かったと思います。		

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	24	0	0	2	
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	25	0	0	1	
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	25	1	0	0	毎月お便りがあり、行事の予定も分かりやすいです。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	20	1	0	5	
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	18	2	0	6	
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	20	0	0	6	
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	20	2	1	3	
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	19	2	0	5	
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	25	0	0	1	
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	25	0	0	1	朝弱い子どもが明日inclineさんで「〇〇にいくのよ！」とスッと起きて通所してくれています。自分で予定を確認し、楽しみにしている。
	29	事業所の支援に満足していますか。	26	0	0	0	満足しています！これからも一緒に子どもと向き合ってくださいと思うと心強いです。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
放課後等デイサービスincline		年 月 日				
	チェック項目	はい		工夫している点	課題や改善すべき点	
		はい	いいえ			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		利用者様が増えてきているので、班を分けたりして、活動スペースを広く取り、ゆったり過ごせる環境を設定している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	1	1対1で見守るべきタイミングが出た際、動ける支援員の数が減る為、チームとして声掛けを行い、支援が安全に進むように意識している。	今後も活動ごとの適切な人員配置を行っています。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6			オムツ交換時の静養室をのぞけないように工夫はしているが、完全に見えないように改善する必要がある。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	1	個々の特性を保護者の方とも共有し、用意してほしいものなどは都度相談させていただいている。	排泄の失敗や、個々の特性上常に清潔は難しい場面もあるが、できる限りの努力は続けていきたい。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		気持ちの連鎖が起こることがあるので、その際は車やお散歩等、いろいろな場所や環境設定の方法を取っている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6		パートミーティングの参加率も高く、チームとして支援を考えていくことができている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		パートミーティングやケース会議等	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	6		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6			パートにも内部のみでなく、外部の研修に参加する機会を確保していきたい。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6			職員だけでなく、パートにも周知し、全員が同じ方向を目指し、支援をできる体制を今後も続けていきます。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		参観・散髪・家庭訪問など、今までにはない取り組みで、本人支援や家族支援を行っている。その子毎の、支援内容を定期的に見直し、具体的に支援を設定している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6			

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		色々な活動を通して、子どもたちに様々な経験をしてもらっている。固定化することの楽しみもあるので、バランスよくプログラムを立案していく。	どう支援すれば活動に参加し、楽しんでくれるのか、考え続けていきたいと思っています。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		その子の状況や全体の状況に応じて、素早く予定変更等ができていると思う。	個別活動に関しては今後専門支援の時間を活動の中に組み入れていきたいと思っています。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6			記録は書く人によって、把握している範囲や、捉え方等差異が出るので、客観的に正確に記録していきたい。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6		自立支援・創作活動・余暇支援に関しては工夫し、充実している。	地域交流に関しては、難しい部分もあるが、今後もいろいろな形で参加していきたい。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		自己選択の機会を必ず持つようにしている。	利用者様によっては選択が難しい場面もあるので、選択を阻害しすぎない、意思決定支援を今後もスタッフ全員で模索していきたい。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	3	法人内の放デイ同士の交流の機会を作っている。	同じ公園や施設等で遊ぶ機会があるが、特性上一緒にが難しい子も多い。その中での交流の持ち方は今後考えていく必要がある。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6			
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		正規職員で整理した後、スタッフにもしっかり共有してくれている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	1	保護者交流会や参観、引継ぎ時やケース会議等で一緒に支援を考えていく機会がある。	ペアレントトレーニングまでは実施できていないので、今後の課題とする。
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6				
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6				
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6				

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		送迎時や面談、時には電話などで支援を行わせてもらっている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	○		父親が参加する機会がない(保護者交流会)きょうだい同士の交流する機会も今後は行事を通して創出していきたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		全体としてはもちろんですが、個々としての意識も高めて、十分に注意していきます。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	1		地域の方を招待して行事を行うことがまだないので、今後の課題とします。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	1		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		スタッフ全体で把握できるようにファイリングされている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		食物アレルギーについては共有できている。	医師の指示書が必要な子がいません。今後そのような利用者様がいた際は、しっかりと対応させていただきます。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		避難訓練等実施し、子どもにもスタッフにも周知している。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6			自傷・他害がある子の安全確保についての研修等を行ってきたい。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		定期的の実施してきている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		毎年必ず行っている	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6				

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	RECOアフタースクール		
○保護者評価実施期間	2026年2月4日		2026年2月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10人	(回答者数) 7人
○従業者評価実施期間	2026年2月4日		2026年2月4日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数) 5人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員体制が充実している。若い職員が多く、身体をしっかり動かして利用者さんち全力で関わる事ができる。また、利用者さん一人ひとりの「やりたいこと」を尊重した支援を行っている。	利用者さん一人ひとりに合わせた声かけ。利用者さんの思いや気持ちを伝えられるよう意識した声掛けを行っている。また、安全面・体調面・活動(遊び)面においてもこまめに確認を行い、事故防止や体調変化の早期発見に努めている。	職員体制は整っており、日々協力しながら支援を行う事ができている。一方で、若い職員が多い為、支援の質をさらに高めていく取り組みが必要である。定期的に支援の振り返りや研修への参加を積極的に行い、専門知識や対応力の向上を図っていく。

2	スタッフの意見が尊重される環境。職員の意見を大切に、現場の声を取り入れながら支援取り組みを行っている。	安全管理の意識向上と事故防止の取り組み。毎日の支援後、ヒヤリハットや共有の記録を行い、まとめた改善記録を週終わりに毎回提示している。さらに職員間で共有事項が生じた際は話し合いを設け、支援方針の統一に努めている。	今後は、職員が悩んでいる事等を定期的に職員のアンケートの実施や意見箱の設置など、より意見を出しやすい仕組みに整えていく。また、出された意見を共有し、支援の改善につなげることで、さらに働きやすく質の高い支援体制を目指していく。
3	事業所内で行っている、健康、生活、運動、感覚、認知、行動、言語、コミュニケーション、人間関係、社会性の5領域のルールの習慣化や学習支援に取り組んでいる。事業所内のルールを視覚的で理解できるよう、イラスト等を用いて提示している。また、宿題支援に力を入れており、わからない問題は職員と一緒に取り組んでいる。	帰りの会などで定期的にルールの周知をして、理解と定着を図っている。 学習面では、わかりやすくイラストや物を使って工夫をしたりして、毎日継続して取り組めるよう教育しております。	SSTの取り組みを増やしたり、学習新聞などを作り利用者さんが学習や学ぶことが楽しいや面白いとおもってもらえるような提示して取り組みを行っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	先を見通した対応力の向上が必要。	状況に応じた対応が後手に回ってしまう場面があり、事前の予測や準備が十分でないことがある。	今後は、子ども一人ひとりの特性や日々の変化を踏まえたリスク予想を行い、職員間での情報共有を強化しながら、先を見通した支援体制の構築に努めていく。
2	地域・保護者会、参観日などの交流機会が少ない。	保護者会、参観日については、日中仕事等でお忙しい方が多く、目つ、土日の開所がないため、難しい。地域交流についても事業所開所曜日の影響が大きい。	開所曜日検討と、その他の方法での工夫を検討。

3	別の事業所移転により広い空間を確保できたが動線や活動スペースの整備が発展途中である。	物が多く、整理が追い付かず、子どもたちの行動が予想できない事に繋がってしまう場合がある。	今後は、子どもたちが安全かつ落ち着いて過ごせる環境づくりを段階的に整備していく。
---	--	--	--

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 RECOアフタースクール

公表日 令和8年2月4日

利用児童数 12人

回収数 7

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	6	1				
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	4	2		1		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	3	1	2	1		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	3	3		1		
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	4	1	1	1		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	5	1	1			
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	5	1	1			
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	5	2				
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	5	1	1			
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	5	2				
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	5	1	1			
保護者 への 説明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	6	1				
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	5	2				
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。			7			
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	5	1	1			
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	3	2	1	1		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	4	1	1	1		
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。			7			

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	4	2	1		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	4	1	1	1	
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	5	1	1		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	3	2	1	1	
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	2	3	1	1	
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	2	3		2	
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	5	1		1	
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	4	1	1	1	
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	6			1	
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	6			1	
	29	事業所の支援に満足していますか。	4		1	2	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		RECOアフタースクール		公表日		令和8年 2月 4日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		5	
2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。		5		・連絡帳等把握状況についてごまめに 行っている。	・送迎に出ている職員が多く、待機している職員が少ない時に3,4人たくさん帰ってくると対応が難しい時がある。	
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		3	2	・一日の流れをホワイトボードに書き出している。	・長期休み等、イレギュラーなスケジュールで活動する日か工程表、しおりがあると良いと思う。・物の置き方等雑になっている部分があるので、収納ボックスなど活用していく。	
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		5		・メインの部屋が広い。使える部屋数が増えて、目的や状況に応じて使い分けられていると思う。		
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		5				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。		3	2	・ヒヤリハットを毎日記入している。	・一部の職員の人になる場合が多い。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		3	2	・LINE等を用いて、連絡を取り合っている。・大事な情報などはファイルに記録したり、提示したりしている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		5		・週に一回ミーティングを行っている。 ・長期休み前のミーティングで確認が取れている。 ・報告やヒヤリハットまとめ等行っており分かりやすく見やすい。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。			5	・この機会に設けていない他の事業所で改善がみこまれるかもしれません。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。		5		・研修を月1回ペースで行っている。	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		4	1	・個別支援計画を作成し、それに則って支援している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。		5			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。		5		・日々、業務に携わっている方たちと、コミュニケーションを取っている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。		5		・支援中のポイント等を業務前に共有している。 ・活動日報等分かりやすい。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		5			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。		3	2		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。		5		・月一のミーティングで活動など話し合っている。 ・正職員やアルバイトさんから案を貰って考えている。	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		・子どもたちの実態に合わせて活動などを設定している。・活動のある日(クッキングや公園へのおでかけ)・行ったことがない所にも行きたいと思いい、色々考えている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	1	・子どもたちの状況、支援上のポイントなど共有している。・朝にミーティングをしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		・ヒヤリハットなど毎日記入している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		・気になった点などを書き記録している。・報告が毎日共有している。・改善点など一週間のまとめで記録して共有している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		・定期的なモニタリングで面談や書面でやり取りをして見直しをしたりして契約を行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5			
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		・みんながやりたい事を自由に出来ている。・利用者さんが自分の思いや自分がしたい事を実現できるよう対応している。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5			
	27	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		・学校との連携など意識している。	
	28	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか。	4	1		・時々、お迎えに行った時に欠席がわかる場合がある。・休みの連絡などの共有されていないことがあったりする。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5			・まだ移行している利用者さんがいません。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5			・機械があれば参加したいです。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	1	・公園などで交流する機会などがある。	
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	5			・参加したことないです。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		・申し送りの時に良い事(成長の様子など)がシェアされている。	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5			・そのような機会をつくって役立てていきたいです。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		・契約時に説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		・本人や保護者に聞き取りを行っている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5			

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		・オープンな気持ちを持って、相談できるような環境を整えている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		5		・保護者会などは設けておりません。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		・インスタグラムを活用しています。 ・通信等保護者さんに発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		・形に残るものなどは利用者さんの名前を(イニシャル)で表現されている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	5		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	1		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4	1		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4	1	・まとめられた表がありわかりやすい。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		・マニュアルがありわかりやすい。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	1		
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		・ヒヤリハットのまとめがある。 ・毎日の業務の中で記録共有している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		・研修の機会を設けている。 ・毎年行っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5				